

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・当社では今までで一番大きな葬儀の依頼があった。もちろん家族葬もあり、順調に広がっていると感じている。
		スーパー（企画担当）	・ようやく末端まで好景気の一部が回ってきている。この動きも一瞬だろうが、2～3か月は続くのではないが。
(甲信越)		乗用車販売店（経営者）	・新型車を中心に、新車販売が上向ってきている。1～3月の需要期に、消費税増税を意識した買換え促進も見込める。
		乗用車販売店（管理担当）	・新型車の投入効果により、全体的に景気は上昇傾向にある。
		自動車備品販売店（経営者）	・冬のボーナスは製造業を中心に前年より増えたようである。スキー場もオープンし、観光客の入込、予約も順調との情報がある。
		一般レストラン（経営者）	・過去最低の12月を経験したので、これを底と考えて努力するしかない。地方飲食店が抱える問題は山積みで、かなり地道な努力になりそうである。
		一般レストラン（経営者）	・近隣にオープンした温泉施設に来る客が当店へ流れてくるのではないかと大いに期待している。リピーター対策で、注文以外のミニ小鉢料理などを提供するサービスをより一層充実する。
		遊園地（職員）	・今後も、新規施設や冬季のスケート場営業、イベント実施等により、引き続き、多数の来園客を期待する。
		ゴルフ場（経営者）	・全体的に景気が上向きと聞いているので、レジャー産業への波及が期待できる。
		美容室（経営者）	・成人の日の着付け予約が、前年に比べて増加している。成人式以降は寒くなり、来客数が減少してくるとみている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・買換え需要が主流であり、商品単価も下がっているため、売上増は厳しい状況である。寒波到来で、季節商材の買い増しでもあれば多少の活気は出るが、燃料費の値上げがあれば厳しくなる。
		百貨店（営業担当）	・景気は決して悪くはないと思うが、将来不安も抱えるなかで個人消費はもう一つ盛り上がってこない気がしている。買物については慎重である。
		百貨店（売場担当）	・大きな顧客施策を打っても常顧客のみで頭打ちである。新規顧客、フリー客が増えない限り、現状と変わらない。
		百貨店（店長）	・大きく悪くなることはないだろうが、逆に良くなる理由も見つからない。売上が堅調なのは、食品のような必需品である。主力の衣料品が売れるようにならないと厳しい。
		スーパー（経営者）	・増減税半ばの来年度だが、ゼロ金利での将来不安は拡大するのではないか。
		スーパー（経営者）	・大きな変動は見込めない。
		スーパー（経営者）	・最低限変わらないでほしい。この先は雪が降るので、来客数は減少する。外販を増やして、売上増を目指したい。
		コンビニ（店長）	・現状、降雪も少なく良い状況だが、このままいけば、今までと同じような推移で続いていくのではないか。大きな何かがあれば、難しいが、このまま行ってくるとよい。
		衣料品専門店（経営者）	・よほどのことがない限り、1～3月は仕事がないとみている。
		家電量販店（店長）	・1人の客当たりの単価、購入点数が年々減少傾向にある。
		乗用車販売店（経営者）	・株投資等をしている客には消費意欲が感じられるが、中小、零細企業に勤める客は高額な消費意欲がほとんど感じられない。
		乗用車販売店（経営者）	・地場産業の機械製造業は堅調のようだが、若者の個人消費は伸びているとはいえない。
	スナック（経営者）	・10月あたりからやや悪化してきていたのが、はっきり落ちたと分かるようになってきたので少し警戒している。もうしばらく注意しながら様子見である。	
	スナック（経営者）	・変わらないを選択しているが、これは今より変わらないでほしいという意味である。本当に今年1年は、大変だったので、何か良い策があったら教えてほしい。	
	観光型旅館（経営者）	・いまだ旅行需要が回復しない。インバウンドも地方では売上に影響が出るほどまでは、増加していない。	
	都市型ホテル（支配人）	・年末年始を除いた前後1～2週間は、市街地にある当ホテルはビジネス需要が少ないため、冬季の宿泊売上は例年落ち込む傾向にある。	
	旅行代理店（副支店長）	・冬季オリンピック等に期待しているが、申込みや受注は控え目である。荒天による大雪などが懸念され、景気は大きく変わらないものの、国内のアウトバウンド需要は個人、団体共に若干動きがあり、今後期待したい。	

	タクシー運転手	・市内の同業者はほぼ同じ状況で前年を割っている。
	通信会社（経営者）	・2月に冬季オリンピックの中継等があるにもかかわらず、全く盛り上がっていない。客の反応もほとんどない。
	設計事務所（経営者）	・2～3月納期の物件がいくつもあり、忙しい。
	住宅販売会社（従業員）	・別荘所有者の高齢化は進んでいるものの、世代交代が図れておらず、若年層の利用者は減少している。
	商店街（代表者）	・12～1月といえばボーナスが出て、商店街も一番活気付く時期だが、現状は通常より悪いくらいに客足が途絶えている。つくづく商店街も大変である。
	商店街（代表者）	・前年の大河ドラマ終了、今年は引き続きの企画展とロングランのイベントも終了し、特に目玉のない平常状態での営業になる。
	コンビニ（経営者）	・これから2～3月については節分、恵方巻き、ひな祭りがあるが、売上を確保できる商材がない。したがって、やはり廃棄金額を抑えるとか、ある程度守りの姿勢を貫かざるを得ないので、大きな期待はできない。
	コンビニ（エリア担当）	・消費につながる景気回復は、期待できない状況である。良質な物、良品に消費が傾くとはいえ、その機会は多いとはいえない。
	スナック（経営者）	・年末年始の忘新年会シーズンが終わると、通常営業に戻るが、当地は1月後半～2月くらいから降雪の時期となり、一気に客足が鈍くなってしまつたので、しばらくはかなり厳しい状況が続きそうである。
	観光型ホテル（支配人）	・インターネット予約が増えて、宿泊直前の予約が著しく、間際まで状況が読めない。その上、団体客や企画募集の催行率も良くない。
	都市型ホテル（スタッフ）	・予約受注状況は前年割れが続いている。客の動き、雰囲気にも全体的に停滞感が感じられ、先に向けて積極的に動こうという話は聞かない。現状維持が続きそうで、回復傾向には到底向かわないと感じている。
	都市型ホテル（スタッフ）	・地元紙で発表された近隣5県の経済状況の比較において、1人当たりの県民所得が約270万円、全国で31位ということで、前年を下回っている。マインドの部分で消費力が下がると思う。
	ゴルフ場（経営者）	・冬季に入り、クローズコースの多い隣県客の獲得を目指しているが、まだ予約は少ない。冬の天候が気になる。
	×	*
企業 動向 関連 (甲信越)		-
	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・店頭動きが出てきているので期待できる。ただし、卸売は中国頼みのところがあり、国内マーケットが回復するには、まだしばらく掛かりそうである。現在、宝飾業者は、中国市場にジュエリーを多く販売している。当初は中古の高額品だったが、現在では、真珠と300ドルまでのジュエリーが売れており、国内の多くの卸業者は、国内マーケットより中国向けに商品を生産している。
	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・大型案件の話が特にない。年度末に向けて忙しくなるはずだが、ほぼ変わらない状況とみている。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・WebやSNSなどでPRはするものの、反応が少ない上に受注も谷間を迎える時期で、今後の予想が立たない。
	一般機械器具製造業（経営者）	・国内受注は堅調に推移しているが、海外需要は地域によりばらつきがあるため、総じてそう変わらない。
	電気機械器具製造業（経営者）	・固定の仕事はないものの、当面の仕事は確保できそうである。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・引き合いは増加傾向にあるが、春先の仕事確保は厳しくなっている。
	金融業（調査担当）	・製造業を中心に、景況感の改善が続く見通しである。ただし、家計や消費関連は、いまだに厳しさが残っている。所得改善が中小企業にまで波及するのが不透明である。
	金融業（経営企画担当）	・当地域では、主に製造業が雇用を支えている。景気回復、従業員の賃上げ等が一部の製造業に限られており、地域全体への広がりが感じられない。また、不動産取引も、一般住宅用地の売買に動きはあるが、地価がやや下落傾向のため、景気は横ばいと判断する。
	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・地域ミニコミ紙の広告担当者が、2～3月の出稿予定が大変厳しく、値下げ提案にも乗ってもらえないとこぼしている。
	食料品製造業（総務担当）	・消費者の購買意欲は、年末を境に低下が予想される。また、2極化傾向は更に進み、購買を慎重に考える消費者が増えたとみている。
	食料品製造業（製造担当）	・諸経費が上がり、利益を出すのが厳しくなっている。

		建設業（経営者）	・新年度に向かって、受注増を期待している。ただし、人手不足等を考えると、景気はやや悪くなるのではないかと。
	x	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月のことだが、資金繰りは大変である。
雇用 関連		職業安定所（職員）	・求人倍率が上昇傾向にあり、今後も上昇が見込まれる。
		-	-
(甲信越)		人材派遣会社（営業担当）	・ボーナスも含め給与が変わっていないため、生活は変わらず、消費意欲は湧かない。
		職業安定所（職員）	・求人増、求職者減の傾向は変わらず、小口の企業整備が重なったことから事業所都合離職者が10.1%増加したが、在職求職者は6.0%減少している。年末を控え求職者の動きも少なく、人手不足の状況が続いている。
		職業安定所（職員）	・新規、有効求職者共に前月よりも減少した一方、新規、有効求人数は増加している。結果として有効求人倍率は1.52倍と前月よりも0.03ポイント上昇したものの、大幅な改善は見込めない。
		-	-
	x	-	-